

第3回 聖籠中学校運営方式検討委員会 議事要旨

日 時	令和8年7月24日（金） 午後3時00～午後4時30分
場 所	聖籠町役場 第2会議室
出席委員	大橋委員、島津委員、有井委員、田中委員、諏訪委員、丸田委員、宮川委員
欠席委員	なし
事 務 局	昆教育未来課長補佐、阿部副参事、小林子ども教育課長、大澤主事、小林総合政策課長、高橋主幹、宮森主任
次 第	1 開会 2 教育長挨拶 3 議事 （1）聖籠町がめざす子ども像について ・国の動向 ・聖籠町「未来を創る子どもの育成」 ・聖籠中学校グランドデザイン （2）めざす子ども像を踏まえた運営方式の選択について （3）報告書の柱立てについて 4 事務連絡 5 閉会

委員の変更

○事務局から、田中（一）委員が異動により退任となり、補欠委員に後任の島津委員が就任となったことを報告。

委員長代理者の選出

○田中（一）委員の退任に伴い、代理者が不在となったため、委員長の指名により島津委員が代理者に定められた。

議事（1）聖籠町がめざす子ども像について

事務局	（資料に沿って説明） ・国の動向 （講師：有井委員） ・聖籠町「未来を創る子どもの育成」 ・聖籠中学校グランドデザイン（講師：田中委員）
委員長	これまでの検討の中における、めざす子ども像があつてこそ様々な運営方式を検討できるとの意見を受けて、説明の機会を設けたということである。質問や意見がなければ、町がめざす子ども像を踏まえながら、次の議事を進めることとする。

議事（2）めざす子ども像を踏まえた運営方式の選択について

事務局	（資料に沿って説明）
委 員	資料に、教科センター方式の「これまでの良さも活かしながら必要なところを変えてい

	く」という記載がある一方で、「学級固定方式と教科センター方式のどちらを選択すべきか」を検討委員会で協議すると記載されている。折衷案ではなく、いずれかの方式を選ぶということか。
事務局	選択肢の中には折衷案やどちらか寄りというような考え方も含む。
委員	聖籠中学校の教科センター方式の運営の仕方は、時期により変遷していた。教科センター方式を選択する場合、どの時期の運営をイメージして教科センター方式と考えれば良いか。
委員長	一定の時期の教科センター方式に戻す、あるいは一般的な学校と同じ学級固定方式をするという二者択一としなくて良い。現実的に、施設構造や人員配置を踏まえると、開校当初の教科センター方式で運営するのは無理があると考えられる。学級をベースにしながらも教科センター方式の良かったところを取り入れるというような捉え方で良いと考える。
委員	コロナ禍以降、聖籠中学校は学級固定方式で運営しているということであったが、今の子どもたちや先生方の様子が分かれば教えていただきたい。
委員	安定していて大きなトラブルも減多になく、子どもたちが教員と落ち着いて話ができている状況である。授業中や休み時間も、居場所があるという意味で、安心して自分の教室や席にすることができていると感じる。学年の教室がまとまっているので、学年の仲間同士で集まって和気あいあいとしている様子も見られる。
委員	教務室は教科教務室から学年教務室に変わったと聞いているが、これについて今はどのような状況であるか。
委員	子どもたちは、教室の近くに学年の先生がいるため、すぐに相談できるという安心感を持っていると感じている。教科教務室で運営していた頃は、担任の先生に会うために遠くの教科教務室まで行ってみたけれど、そこに先生がいなかったということも起こっていたため、その当時に比べると常に安心して先生に会いに行けるように思う。
委員	教科教務室での運営においては、教科の教員同士がすぐに話し合えて、授業づくりに関しては非常にメリットがあったが、今の教務室の環境においては、めざす子ども像や学力向上に向けた授業づくりの取組はどのような状況か。
委員	教科の教員同士の繋がりに関しては当時よりは弱いと思われる。しかし、場合によっては一教科につき1、2人の教員ということもあり、また、議事1で説明があった国の動向も踏まえると、教科を超えて授業研究をしていかなければならない時代でもある。聖籠中学校でもそれに対応していくと考えると、困難なことではないと考える。
委員	教員にとっては、教科教務室も学年教務室もそれぞれのメリットがある。生徒にとっては、学年教務室の方が、担任や学年の先生がすぐ近くで見えていてくれて、トラブルがあってもすぐ対応してもらえるとという安心感があり、メリットが大きいと感じる。
委員	近年の小中学校において、子どもが繋がりを感じる経験が弱く、個の選択の尊重なども影響してややまとまりがない印象がある。子ども同士の繋がりについては、聖籠中学校開校当初の教科センター方式のように都度集団が編成され分散されることは、仕組みとしても、近年の子どもの育ちという視点においても難しさがあると考えため、固定された学級集団を基礎とすることは選択肢の一つである。学びの繋がりを考えると、教科の教室に学級集団が行く方法は、1年生で学んだ内容が2年生で学ぶ内容に繋がってきたなどの繋

	がりを感じながら取組めるようになることが期待される。 教員同士の繋がりに関しては、子どもたちの育ちを語り、共有していく経験がとても大切で、そのためには学年でまとまっている方が良いと考えられる。教科ごとの教員の繋がりについては、教科の教員同士で空き時間が重なるようにしたり、放課後に教科の教室で週1回は集まる機会を設けたりなど、時間割ないしは施設の構造を活用した繋がりを持ち方を検討したら良いのではないかな。
委 員	現実的には、教科部会の時間がなかなか取れないことは他の学校でも課題となっている。聖籠中学校では教科部会の時間は確保できているか。
委 員	非常に困難な状況である。特別支援の学級も多く、教員同士で手がすく時間が合わない。そうだからと言って反対に教科教務室で運営し、学年部会の時間の確保をしようとしても同様に難しいと思われる。
委 員	運営において、教科の学習と学級経営のどちらかだけを重視しすぎてしまうと、もう一方への対応に苦慮してしまうことになる。やはり、今後はそれぞれにとって良い面を掛け合わせる方法を考えていく必要がある。
委員長	学級を固定した方がめざしている子ども像に近づくための方策を取りやすいのであれば、学級をベースに考えたほうが良いのではないかなと思うし、先生方の実感としても、学級ベースを崩すことは現実的ではないという印象である。 一方で、校舎を有効活用するためには、教科の学習をどのように意識して運営していくかが非常に重要である。教科を感じられる部屋をどこかに残して定期的に学びの跡が残っていたり、それを子どもたちが教科の先生と一緒に作ったり、単元を踏まえて掲示を変えたりなどの取組があると、校舎の活用方法が生まれてくるのではないかな。また、特別支援学級が多いという状況もあるため、予算の都合がつくのであれば、ホームベースを特別支援学級の教室に改修するのも活用法の一つであると思う。 運営方式の選択においては、教科センター方式ではなく、学級固定方式での運営を中心に考えたほうが良いという意見が多いようであるが、いかがかな。
委 員	子どもたちが安心して意見を発表したり、話し合ったりするためには安心で安全な環境づくりが大切である。今の聖籠中学校では、学級を居心地の良い環境にしておくことで生徒が自分の力を発揮できる状況なので、学級をベースとした運営に賛成である。そのうえで、校舎の構造を活かした教科に触れられる空間づくりは、工夫をして残してもらいたい。 校舎の有効活用としては、子どもたちが道具を置く場所の工夫が必要である。教室の近くにロッカーがあることが望ましいが、当初ホームベースにあったロッカーは、大型で重量もあり1階の教室の近くに運ぶことができず、小さな棚を使っている。きちんと道具をしまえるようになればすっきりし、ロッカーが邪魔になっているスペースは、教科のコーナーにするなどの活用ができる可能性がある。
委 員	次期学習指導要領の議論では、授業時間の調整の検討がなされている。実際の導入は少し先となるが、授業の一部を削って教員研修に充てることができるようになる見込みであるため、それを週に1回は教科の研修に活用するなどを見据えながら考えると良い。
委員長	今後、検討をさらに進めるにあたって注意いただきたいが、大切なのは、めざす子ども像に向かっていくために何が大事なのかということを先生方にも共有したうえで運営していくということである。先ほどの意見にあったように、子どもたちの育ちのためには心理

	的安全性がなければ成り立たず、そのために学級をベースとした運営を選ぶという論点は大切で、教員が生徒の管理上において楽で便利だからという理由で選ぶことは絶対にしないでいただきたい。
委 員	委員長の発言と重複するが、子どもの学習権の保障の考え方である。その構造を作るには、教員個人の好き嫌いや意欲の有無に委ねすぎるべきではなく、町や管理職、中堅のリーダーシップが不可欠であるが、子どもたちが社会を生きていく上で、学びを生活に繋げていけるようにする学習権を保障することが大切で、そのために教員が何をするか、ということが前提になる。
委員長	本議事の意見のまとめであるが、めざす子ども像を実現するために、学級をベースとした運用方式を基本としながら、これまで教科センター方式で培ってきた教科の強みを活かすこと、校舎を有効活用することを中心に検討を進めていくこととしたい。前例の是非だけではなく、これからの子どもたちの未来を見据えながら判断していけるよう、次回は視察の結果も踏まえてご意見いただきたい。

議事（３）報告書の柱立てについて

事務局	（資料に沿って説明）
委員長	説明のあった事務局案の内容で進めることについて、よろしいか。
一 同	（異議なし）
委員長	それでは、事務局案のとおりの方角性で進めることをお願いします。 次回、報告書がより良いものになるよう、視察した上での感想や意見も踏まえながらご協力いただきたい。 以上で、本日の議事を終了する。

以上